2009. 9. 30

岡山県立 博物館だより 72号

■ 館長室より …… ②
■ 博物館 NEWS …… ③
■ 特別展を終えて …… ④
■ 企画展を終えて …… ⑤
■ 学芸員ノート …… ⑥
■ 教育普及事業 …… ⑦
■ INFORMATION …… ⑧

〈吉備の国ジュニア歴史スクール〉牟佐大塚古墳石室内

〈特別展より〉御後園絵図
岡山大学附属図書館蔵

〈企画展より〉「昭和のくらし　―50年前のおかやま―」展示風景

博物館と福祉の連携推進

昭和３０年代は、戦後社会に一番活気があった時代であり、人々が明日への希望を持ち、輝いた時代といわれています。東京オリンピックの開催や新幹線の開通。岡山県では１巡目の国体が開催されました。県立博物館では、今年の夏、この時代を取り上げた企画展「昭和のくらし －５０年前のおかやま－」を開催しました。中高年の方々には子どもの頃の自分を思い出す機会に、子どもたちには当時の空気を感じてほしいと計画しました。

展覧会の開催に当たっては、私を含めて担当者の間で何回も協議を重ねます。展覧会の趣旨、展示構成や展示資料、また、関連行事の種類と実施方法、ポスターのデザインなどについて話し合いを重ねながら具体化を進めます。今回の協議は、通常の他の展覧会に比べ、多くの時間を費やしました。「おかやま国体の時は、中学1年生で…」「石原裕次郎の映画は…」「これは子どもの時に見た記憶が…」など、それぞれの職員が当時にまつわる思い出を語りだし、時間の経過に気づかないこともありました。

会期中の展示室は、多くの入館者でにぎわいました。父親と子ども、あるいは、おばあさんとお孫さん。また、中高年の方々のグループ。「お父さんが子どもの頃は…」「昔の家じゃー」「テレビが初めて家にきたのは…」「懐かしい」。通常、静寂が原則の展示室ですが、資料を見ながら楽しそうな会話が弾み、少々ざわついた感がありました。

企画展「昭和のくらし －50年前のおかやま－」の風景

昔懐かしい生活道具や電化製品などを見ながら、かつて自分が体験したことに思いを馳せ、語り合うことで、生き生きした自分を取り戻す「回想法」という心理療法があります。愛知県の北名古屋市では、この回想法を媒体に、博物館と福祉施設が一体となった取り組みが進められています。北名古屋市歴史民俗資料館は、平成５年から昭和時代をテーマとした展示を展開し、資料の収集・保存に取り組み、「昭和日常博物館」という呼称を設定しています。施設入居の高齢者が遠足等の名称で資料館を訪れます。多くの高齢者の方々は「懐かしい」という声、その思い出話、お互いが語り合うときの楽しそうな表情など、普段と違う生き生きとした態度が見られるとのことです。回想法は認知症の予防や進行抑制にも効果があるといわれています。

昨年、国においては「博物館法」が改正され、また、「教育振興基本計画」が策定されました。博物館の広域的な地域連携や多様な地域の課題等に応じた機能が求められています。今回の企画展を開催して、博物館が福祉と連携し、地域社会に貢献できる意義の大きいことを知りました。今後の地方博物館の一つの役割として、福祉と一体となった新しい試みも検討したいと考えています。

（館長　芦田和正）

「岡山県立博物館中期目標ー地域に活きる魅力ある博物館を目指してー」の策定

平成２０年の博物館法の改正では新たに努力義務として、博物館運営について評価を行うことが規定されました。こうした中、本館では、評価の具体的な内容について検討を進め、岡山県立博物館協議会においても論議していただき、中期目標を策定しました。この中期目標は、(財)日本博物館協会が策定した「博物館の望ましい姿」(平成１５年３月) に基づき、今後５ヶ年程度の近い将来の岡山県立博物館のあるべき姿やめざす方向性を示すとともに、具体的な数値目標を広く県民に示したもので、その実現に向けて努力していきます。本館ホームページに掲載しています。

吉備の国ジュニア歴史スクール

県内の小学生を対象として、岡山県の歴史と文化について、テーマを設定して現地を見学するとともに、博物館で学習し、その成果を学校でまとめることを柱とした３日間の歴史スクールを開設しました。この事業は、本館と(財)岡山県教育職員互助組合とが実行委員会を結成して実施する新たな取り組みでもあります。

［国宝］ 赤韋威鎧　兜、大袖付

「国宝　赤韋威鎧」海外へ

文化庁は、平成２１年１０月から平成２２年１月までメトロポリタン美術館(ニューヨーク) において、日本の武士の文化を総合的に紹介する「侍の芸術」展を開催します。この展覧会に、我が国を代表する武具の一つとして本館が所蔵する「赤韋威鎧」が選ばれ、初めて海外で出陳されることになりました。　(副館長　平井泰男)

資料紹介　蓄　音　機

蓄音機は、明治10(１８７７)年、エジソンにより実用化され日本には明治１２(１８７９)年に入ってきました。大正時代に製造されたこのビクタートーキングマシンの蓄音機「Ｖｉｃｔｒｏｌａ(ビクトローラ)」は、一般にイメージされる蓄音機にあるラッパ型のホーンはなく、大型の箱型筐体(きょうたい)にホーンを内蔵したデザインです。家具調の箱の上段がターンテーブル、中段がホーンで扉を開閉して音量調節し、下段は棚となっています。４枚のゼンマイにおもりが３つあり、さらにスピードコントローラがついた本機は、今から３０年ほど前に本館の所蔵品となりました。しかし、長年の間にゼンマイなどの不具合のためレコードを聴くことができなくなっていました。このたび地元の金工家の手により甦り、独特の音色で曲を聴けることになりました。サウンドボックスは雲母製を復元し、針も鉄針と竹針を作りました。この蓄音機は赤磐市出身の日本を代表する女流詩人である永瀬清子氏旧蔵の品です。

修復された蓄音機の御披露目コンサート

(学芸員　信江啓子)

特別展を終えて

「岡山後楽園」

会期：平成21年4月24日（金）～5月24日（日）

本年3月20日より、岡山市西大寺地区をメイン会場に、「第26回全国都市緑化おかやまフェア」が開催されました。岡山後楽園がサブ会場とされたことから、本館では「岡山後楽園」と題した特別展を開催しました。

広報用チラシ（表）

岡山後楽園の現在の風景と、築庭を進めた岡山藩主池田綱政の肖像画を組みあわせたデザイン。

展示の内容

第1章「近世土木遺産」では、近年、土木技術の面からも注目を集めている、岡山藩の郡代を務めた津田永忠を取りあげました。また、平成19年度に行われた「後楽園花交の池」の発掘調査で見つかった木樋管の一部を展示し、その土木技術水準の高さを紹介しました。

第2章「池田綱政の築庭」では、後楽園を築庭した岡山藩主池田綱政に注目し、大名庭園としての後楽園の誕生と築庭当初の後楽園の様子について、絵図や当時の記録を展示しました。

第3章「歴代藩主と庭園の変遷」では、歴代藩主により後楽園が、どのように使われたかについて、関係の資料を展示しました。また、当初は田畑の面積が大きかった後楽園が、次第に現在のような芝生の広がる庭園に変化していったことなどについて、絵図などの資料により紹介しました。

第4章「開かれた公園」では、明治以降、岡山県に譲渡され、県有地として一般公開され、観光地として有名となっていった後楽園について、絵はがきや諸記録などを陳列しました。

関連行事について

後楽園の歴史について学習する様々な関連行事を行いました。川崎医療福祉大学特任教授の神原邦男氏による「池田綱政の世界－庭と神仏と能舞台－」と題した記念講演会では、長年続けられている基礎資料を読み解く研究から、池田綱政の築庭に関わる思想や能舞台の設置について、80名の参加者が聞き入りました。

記念講演会

「花交の池」落樋の発掘を担当された岡山県古代吉備文化財センター総括副参事の岡本寛久氏による「樋作りの工匠たちの活動とその技術－岡山後楽園「花交の池」落樋の発掘調査から－」と題した特別報告・解説には32名の方々が、また、『後楽園史』の編集を進められた岡山県郷土文化財団研究員の万城あき氏による特別解説には45名の方々が参加されました。いずれも参加者は研究者の説明に熱心に聞き入りました。

「江戸時代の後楽園を知ろう」の様子

学芸員の案内で江戸時代の絵図を参考に、江戸時代と現在の後楽園を比較しながら後楽園を散策する「江戸時代の後楽園を知ろう －学芸員と絵図を手に歩く－」には予定した30名を上回る方々が参加されました。

展覧会を終えて

本展は会期中5,791名の方に御覧いただきました。展覧会を通じて、岡山後楽園が様々な歴史的な変遷を経て、今日まで多くの方々の努力により名園として保存されてきたことを改めて感じることができました。名園に隣接する博物館として、岡山後楽園について今後も研究をすすめ、展示に活かしていきたいと思います。

（学芸員　浅野慎太郎）

「昭和のくらし －50年前の岡山－」

会期：平成21年7月24日（金）～9月6日（日）

展示は3部構成で

「もはや戦後ではない」〈昭和31（1956）年の「経済白書」〉といわれた今から50年前の昭和30年代のくらしをテーマにした本展は、3部構成としました。

広報用チラシ（表）

卓袱台を囲む食事風景の写真は、まさに50年前の昭和34年のもの。奥に見えるテレビは、皇太子殿下の御成婚を見るために購入されたという。原動機付自転車もこの時代のもの。

第1部「あの頃…」。昭和30年代の国内、岡山県内の大きなできごとを振り返りました。皇太子殿下の御成婚、東京オリンピック、1巡目の岡山国体開催等を当時の新聞やパンフレット等で紹介しました。

第2部「くらしの風景…」。当時倉敷市で国産ジーンズ第1号が生まれています。この記念すべきジーンズや軽四輪乗用車の決定版といわれた三菱ミニカ（昭和39年生産開始）等を地元企業の御協力で展示しました。また「三種の神器」と呼ばれた「テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫」や蚊帳、娯楽の王様であった映画のポスター等衣食住、娯楽に関わる資料を御覧いただきました。

第3部「子どもたちは…」。当時の子どもたちの学びや遊びの道具を集めました。給食のサンプル、教科書、フラフープにダッコちゃんも並びました。また、卓袱台（ちゃぶだい）を真ん中に、テレビ、箪笥（たんす）等のある茶の間や庭先の涼み台（一畳台）も再現しました。

関連行事も大好評

開催期間が夏休みにあたることから、親子でまた3世代、4世代の家族で楽しめる展覧会をめざして様々な関連行事を行いました。まず昭和30年代、日本各地を走って子どもたちに夢を与えた菓子メーカーカバヤのカバ車の復刻車が博物館にやってきました（約400名参加）。この時代に走ったダイハツミゼット、三菱500、スバル360もやってきました。「父が乗っていたのを思い出した」「これに乗ってみたかった」「この車の製造に携わっていた」等と様々な思い出を聞かせていただきました（2日間で約2,000名参加）。

「昭和30年代の車がやってくる！」の様子

また、今回本館で初めての試みとして展示室でコンサートを開きました。一巡目の岡山国体開催に合わせ、創設された桃太郎少年合唱団の歌声を、約130名の方々が展示物を囲んで聴かれました。足踏みミシンや蚊帳、こまに竹とんぼ等の昔のくらしや遊びの道具体験会には4日間で614名の方が参加されました。市民参画事業として各家庭にある昭和時代の道具類を本館ホールで展示する企画も行いました。エピソードを合わせ展示された貴重な写真や本、超小型ラジオに編み機等（展示点数60点）は来館者の関心も高く本館にとっても貴重な資料情報となりました。この企画は、昭和時代の道具類を見直すよい機会にもなったようです。大正時代の蓄音機による昭和時代のSPレコードコンサートには約170名の方々にお集まりいただきました。流行歌やクラシックの曲が蓄音機ならではの音色で響く心地よいひとときになりました。

「昔のくらしを体験しよう！」の様子

展覧会を終えて

アルマイトの弁当箱の前で「弁当を詰めてくれていたおふくろを思い出す」と涙ぐまれた男性、「ハイトリ紙が髪の毛について困ったんよ」と教えてくださった女性、親が子に、祖父母が孫に展示物について語っている姿・・・展示室は来館者ひとりひとりが解説員となってしみじみと、また生き生きと過ごす空間となったようでした。

来館者から、「母親は苦労したろうな・・・涙がでた。温故知新」（70代男性）「昭和のくらしすべてがなつかしく物を大切にする気持ちを今一度考えた」（60代女性）「昔のつつましやかだがたくましさのある生活をかいま見ることができた」（50代男性）「昔のくらしがよく分かった」10代男性）等の感想が寄せられました。本展は会期中、12,758名の方々に御覧いただき、多くの方々の共感を得ることができました。これからの現代社会を考える機会にしていただけたのではないかと思います。

（学芸員　信江啓子）

特別陳列　「正阿弥勝義の世界」

会期：平成21年5月29日(金)　～7月20日(月・祝)

正阿弥勝義(1832～1908)は、幕末から明治時代に活躍した岡山出身の天才金工作家です。技術的には日本一といわれながら、知る人ぞ知る存在だった正阿弥勝義ですが、最近の明治工芸人気の高まりを受け、一躍注目を集めつつあります。

本館では、こうした流れと勝義没後100年が経過したことを記念して、特別陳列「正阿弥勝義の世界」を開催し、代表的な作品をはじめ、直筆の下絵や手紙などの関連資料を通じて、その全体像を紹介しました。

正阿弥勝義の人気の秘密はどこにあるのでしょうか。その一つに繊細緻密な超絶技巧が挙げられますが、これは日本が得意とする精密技術と相通じるところがあり、細やかなものを好む日本人の感性に響くのでしょう。また、77年の人生の中で、時代の変化に翻弄されながらも、晩年になるほど素晴らしい作品を生み出した一途な生き様が、多くの課題を抱えた現代社会に生きる私たちに勇気と希望を与えてくれるからかもしれません。

本館では、岡山が誇るこの名匠を今後も顕彰し、より充実した展覧会の開催に向けた調査研究を進めていきます。どうぞ御期待ください。

鶏香炉　岡山県立博物館蔵
※高さ約14cm

＜鶏香炉のアップ＞　わずか数cmの空間に鶏たちがいきいきと表現されている

（学芸員　佐藤寛介）

特別陳列　「大地からの便り2009－県内の発掘調査報告展－」

会期：平成21年7月24日(金)　～9月6日(日)

今夏も本館と岡山県古代吉備文化財センターが主催し、県内の発掘調査速報展として開催しました。展示遺跡は8遺跡と昨年度より増え、第1展示室の大半を本展の資料で埋め尽くしました。なかでも総社市上原遺跡から出土した人面土製品は、「ウルトラマンに似ている!」「どうやってかぶったの?」など、夏休みの子どもたちの一番人気となりました。

人面土製品に見入る入館者

会期中、本館講堂で調査担当者による報告会も行われ、約180名の方が参加されました。出土した考古資料については約1ヶ月、本館展示室で1万人を超える方々に御覧いただきました。

展示遺跡並びに主な展示資料は次のとおりです。

上原遺跡（総社市）	人面土製品・弥生土器など
長良小田中遺跡（総社市）	甑・土師器など
竹林寺天文台遺跡（浅口市）	石器・弥生土器など
鹿田遺跡（岡山市）	貝塚出土の貝殻・弥生土器・壺棺など
伊福定国前遺跡（岡山市）	弥生土器・須恵器・土師器など
備前国分寺跡（赤磐市）	瓦・塼・金具・鎹など
美作国府跡（津山市）	瓦・硯・檜扇・文字刻印須恵器など
史跡岡山城跡本丸下の段（岡山市）	棹秤おもり・瓦・陶磁器・旧制中学文具・手榴弾など

（主幹　正木茂樹）

教育普及事業の概要

博物館講座

広く県民一般を対象に、「岡山の歴史と文化」をテーマに、スタンダードコースとスペシャルコースを開講しています。前者は、本館の学芸員が平素の研究成果を基に博物館資料を活用しながら学習を進めるもので、６月の火曜・木曜の８講座を計１２６名が受講されました。後者は、各研究の第一人者等外部講師をお招きし、より専門的に学習するもので、７月～10月の月１回、４講座を各１１３名が受講されています。

春成秀爾氏の講座風景

	開催日	講　　師	テーマ
スペシャルコース	7月 5日(日)	竹林栄一氏(元岡山県立博物館副館長)	古川古松軒の地理学
	8月 2日(日)	春成秀爾氏(国立歴史民俗博物館名誉教授)	出雲と吉備の青銅器文化
	9月 6日(日)	太郎良裕子氏(ノートルダム清心女子大学大学院人間生活研究科教授)	葬儀と清めの作法
	10月 4日(日)	土井通弘氏(就実大学人文科学部教授)	岡山の仏教美術とその意義について

	開催日		講　師	テーマ
	火曜日班	木曜日班		
スタンダードコース	6月 2日	6月 4日	信江啓子(本館学芸員)	岡山の庶民信仰
			鈴木力郎(本館学芸員)	備前焼の茶陶
	6月 9日	6月11日	河合　忍(本館学芸員)	文化財にしたしむ～ぶつぞう入門
			佐藤寛介(本館学芸員)	正阿弥勝義の世界
	6月16日	6月18日	横山　定(岡山県教育庁文化財課主幹)	閑谷学校を支えたもの
			平井泰男(本館副館長)	岡山の縄文時代研究
	6月23日	6月25日	浅野慎太郎(本館学芸員)	岡山藩主と後楽園
			正木茂樹(本館主幹)	土と火のオブジェ－考古編－

学芸員解説

毎月第２・４土曜日１４時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展覧会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明します。今年度も毎回多くのお客様に御参加いただいています。

館内授業・出前授業

「館内授業」は本館で実物資料に触れたり展示を見学したりします。また「出前授業」は学芸員が実物資料を持って、直接学校に出向いて授業を行うものです。今年度も多くの小学校、中学校および高等学校等より依頼がありました、また大学からも学芸員実習を兼ねての見学が増えています。

吉備の国ジュニア歴史スクール

学芸員が添乗したバスで史跡等の見学を行い（第１日）、本館で実物資料を使った授業と展示見学を行います（第２日）。第３日は各校でまとめの学習となります。今回は「古墳って何？」をテーマに、第１日は５月から６月にかけて、県内の古墳を廻りました。今年度は、高梁市立成羽小学校、吉備中央町立豊野・上竹荘・下竹荘小学校の児童が第１日の史跡見学に参加し、玉野市立鉾立・胸上・後閑小学校の児童は第１日の史跡見学と第２日の館内授業に参加しています。

歴史体験　よろいと小袖を着てみよう！

５月５日には「歴史体験　よろいと小袖を着てみよう！」を実施しました。よろいと小袖ともに１０組ずつの親子が参加し、実際に着用して本物の持つ質感や迫力などを感じてもらいました。飛び入りでももっちにも入ってもらい記念撮影をするなど、楽しい体験の一日になりました。

学芸員実習

７月２８・２９日、学芸員をめざす県内外の学生８名に、学芸員がそれぞれの専門分野に関わる実習を行いました。２日間の館内での実習の後、８月中には展覧会関連行事の支援実習を行いました。夏休み中ということもあって、多くのお客様への対応や行事の準備、片付けに熱心に取り組みました。

（学芸員　鈴木力郎）

平成21年度後期の展示予定

特別展「土と火のオブジェ－縄文の土器・土偶から現代備前焼まで－」
会期　平成21年10月9日(金)～11月15日(日)

特別陳列「くらしの中のガラス」
会期　平成21年11月20日(金)～平成22年2月7日(日)

交流展「古代出雲展－国宝青銅器の世界－」
会期　平成22年1月5日(火)～2月7日(日)

企画展「岡山の戦国時代」
会期　平成22年2月11日(木・祝)～3月14日(日)

特別陳列「虫明焼」
会期　平成22年3月18日(木)～4月4日(日)

ただいま準備中！　平成21年度特別展

『土と火のオブジェ－縄文の土器・土偶から現代備前焼まで－』

我が国は水や土、木などの自然にめぐまれ、私たちの祖先は、この大地で世界最古と言われる土器を出現させました。「東の縄文」といわれる縄文土器や土偶、また「西の弥生」といわれる弥生土器や特殊器台などの祭器、古墳時代の埴輪や須恵器は、まさに古代人の美の象徴といえます。

吉備の大地に備前焼が出現するのは平安時代末期で、鎌倉、室町、そして安土桃山時代と隆盛を誇ります。この時代は、中世の六古窯とよばれる個性的な焼き物が各地に生み出されますが、備前焼も現代にまでその伝統美が生き続けています。

この展覧会では、人々が創造した土と火による造形美を、古代から現代まで御紹介します。悠久の歴史の中で、人々が生み出してきた土と火の文化を存分に堪能していただくとともに、それらの作品に込められた人々の願いや祈りに思いをはせていただく機会になれば幸いです。

(主幹　正木茂樹)

[重要文化財] 新潟県堂平遺跡出土火焔型土器
文化庁蔵、津南町教育委員会保管、小川忠博氏撮影

関連行事

(1) **記念講演会**
日時：10月24日(土) 13:30～15:00
講師：國學院大學名誉教授
新潟県立歴史博物館名誉館長　小林達雄 氏
演題：「縄文土器の正体」
場所：本館講堂（定員180名）　※事前申込不要

(2) **特別解説**
日時：10月18日(日) 14:00～15:00
講師：重要無形文化財保持者（人間国宝）「備前焼」
伊勢﨑淳 氏　※事前申込不要

(3) **縄文の土器・土偶・土面づくり**
日時：10月17日(土) ①10:30～②13:30～
講師：新見市法曽陶芸館・猪風来美術館館長　猪風来 氏
場所：本館講堂
対象：大人、子ども可。親子でも参加できます。
定員　各25名（応募多数の時は抽選）
参加費：一人1,000円　※入館料は不要
申込：代表者氏名・住所・電話番号・参加人数・希望時間①か②希望を明記、はがきかＦＡＸで。
10月9日(金) 締切（必着）

(4) **ぼくの、わたしのオブジェづくり**
～古代の土器やはにわにチャレンジ！～
家族や友達と紙ねんどでオブジェをつくります。
日時：10月11日(日)・12日(月・祝)
両日とも①10:30～②13:30～
場所：本館講堂
対象：中学生以下　定員　各回25名　※事前申込不要

(5) **本物の縄文土器を見て、さわってみよう！**
日時：10月25日(日)・11月1日(日)・3日(火・祝)・8日(日) 13:00～15:00
場所：本館2階ホール　※事前申込不要

(6) **ボランティア・ガイド**
日時：11月3日(火・祝)～8日(日) 13:00～15:00
※11月7日(土) は10:00～12:00　※事前申込不要

(7) **学芸員による展示解説**
日時：10月10日(土)・11月14日(土)
14:00～15:00　※事前申込不要

岡山県立博物館だより　第72号
発行日／平成21年9月30日
発行者／岡山県立博物館　館長　芦田　和正
〒703-8257　岡山市北区後楽園1－5
TEL：086－272－1149　FAX：086－272－1150
URL　http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/hakubu.htm

この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。